

S20-6

分野別評価の意義と役割

～改善・向上に資する評価とするために～

2012.03.30(金) 日本薬学会第132年会
一般シンポジウムS20 6年制薬学教育プログラムの第三者評価
～トライアルから本評価へ～

薬学教育評価機構
評価委員会委員・幹事
学校法人 立命館 総合企画部
事業計画課長 山田 勉

目次

1. 質保証と専門分野別・適格認定
 1. 適格認定は
 2. 質保証とは何か
 3. 質保証の鍵は「分野別評価」
2. 薬学教育評価の「特徴と課題」
 1. 国公立大学(法人)を横断
 2. 薬剤師の評価チームへの参画
 3. 学習成果の測定
3. 分野別評価としての確立へ
 1. 「透明性」
 2. 「成果」
 付録A「A developing understanding of quality」
付録B「教育成果の測定を媒介とした質把握」

2

自己紹介(大学評価に関わって)

- 大学基準協会(大学評価・研究部)へ出向(2006.04)
 - 審査・評価系 専門職員(～2007.12)
 - 青山学院大学、流通科学大学など10大学評価事務局
 - 審査・評価系 副主幹(2008.01～2009.03)
 - 大学評価委員会担当(申請大学数44)、実地視察(18大学)
 - 評価者研修セミナー、異議申立審査会を担当
 - 実務説明会(15大学・団体)
 - 「大学評価」ハンドブック(2008, 2009年度)の編集
- 立命館大学・大学評価室(2009.04～)
 - 自己評価委員会担当
 - 点検・評価報告書(申請用) <13学部16研究科> evidence3,000点超
- 大学基準協会・大学評価分科会委員(2011.04～)
 - 第24分科会委員(2011年度)



3

1. 質保証と専門分野別・適格認定

4

1-1. Accreditation is 適格認定は

a voluntary system of self-regulation
carried out by peer review
in which an institution or program
is found to
meet or exceed a set of standards.

自主・自律的な仕組みで
同僚評価によって行われ
大学や教育プログラムが
一連の基準を充たしているか、
超えているかが明らかになる。

(O'Brien, 2011)

(1 質保証と専門分野別・適格認定)

5

1-2. 質保証とは何か

質保証の定義 (UNESCO-CEPESによる)

■ 質保証

高等教育の質を担保し、かつ発展するためのあらゆる政策、手順、
行動を包含する包括的な用語

■ 内部質保証 (internal quality assurance)

機関(プログラム)の一連の活動に関する質の監視 (monitoring)と
向上 (improvement)に用いられる大学内部の仕組み

■ 外部質保証 (external quality assurance)

機関(プログラム)の質の審査・維持・向上のための機関間または
機関の上位にある制度

(大場, 2009, 178)

(1 質保証と専門分野別・適格認定)

6

1-3. 質保証の鍵は「分野別評価」

■ 機関別・認証評価 —第二サイクルへ—

- 大学基準協会
→「内部質保証システム」の整備と稼働を重点評価
→専門評価分科会の廃止
- Peer Review(同僚評価)の後退
- 最低基準以上という説明責任履行への傾斜



■ 分野別評価 —餅は餅屋—

- 薬科大学・薬学部
→教育成果の測定を媒介に、プログラムの一連の活動に関する
質の監視 (monitoring)と向上 (improvement)
- 薬学教育評価機構
→プログラムの質の審査・維持・向上のために、Peer Reviewの
仕組みを駆使

(宮浦・山田他, 2011, 156)

(1 質保証と専門分野別・適格認定)

7

2. 薬学教育評価の「特徴と課題」

8

2-1. 国公立大学(法人)を横断

→「**理念**」を背景に+基本的「**使命**」を重視

- でも「研究志向はgood」!?
 - ←教育・研究上の目的による
 - ←日本の薬学教育プログラムとして許容される「幅」も考慮



- やっぱり「国立はすごい」!?

←評価対象は、あくまで
薬剤師養成のための
「6年制薬学教育プログラム」

(2 薬学教育評価の「特徴と課題」)

9

2-2. 薬剤師の評価チームへの参画

→「**現場の洞察**」を質保証・向上に活かす

- 大学・学部「**実務実習等のfeed back**」
(質の向上) * 適格認定のprivate function
- 適格認定団体「**パターン認識への落とし込み**」
(質保証) * 適格認定のpublic function



(2 薬学教育評価の「特徴と課題」)

10

2-3. 学習成果の測定

* 米国でも専門分野別・適格認定ではアウトカム評価に重点

→**相互責任**を明確に

- 1) **適格認定団体**は、大学と教育プログラムが学生の学習成果に関する証拠を定期的に定義・収集・解釈・使用する**期待を明確にする責任**がある。
- 2) **大学と教育プログラム**には、学習成果を明示し、学生の達成に関する**証拠を収集・解釈・使用する責任**がある。
- 3) **適格認定団体**には、教育の質と適格認定の判断をする際に、**学生の学習成果に関する証拠を使用する責任**がある。
- 4) **大学と教育プログラム**は、**学生が何を学んだのかについて明確で信頼できる情報を有権者に提供する責任を適格認定団体と共有している。**
(CHEA, 2003)



(2 薬学教育評価の「特徴と課題」)

11

3. 分野別評価としての確立へ

12

3-1. 「透明性」

■ 「仲間内の評価」「不意打ち」の防止

- 精緻化・明確化された評価基準・観点
+
- 観点の総和＝評価基準という構成、
中項目ごとに点検・評価する意義の浸透
- 訪問調査の閲覧資料、
閲覧結果の評価への反映に関する検討



(3 分野別評価としての確立へ)

13

3-2. 「成果」

■ Assessmentの定義 (学習成果測定のための)

- 目的は何か？(why?)
 - 教育・学習の質の向上か、説明責任か
- どのレベルで測定するか？(who?)
 - 個人か集団か
- 何を測定するのか？(what?)
 - 知識か技術か態度か行動か



(Terenzini, 1989, 644-664)

■ 計画的・継続的な評価者研修

- 評価のレベルは、システム半分、評価者の識見半分

(3 分野別評価としての確立へ)

14

A developing understanding of quality

質に関する理解の発展

Inputs(入力)	Processes(過程)	Outcomes(成果)
図書館に十分な書籍とデータベースがあるか	学生は書籍とデータベース利用しているか	学生は情報リテラシー技術を発展させているか
教員の質は高いか	教え方はよいか	学生は大学と教育プログラムの学習成果を獲得しているか
カリキュラムは適切か	学生は練習し、フィードバックを受けているか	学生は大学と教育プログラムの学習成果を獲得しているか

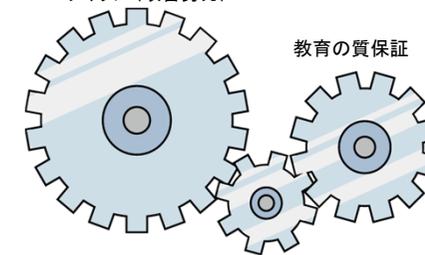
(O'Brien, 2011)

(付録A)

15

教育成果の測定を媒介とした質把握

PDCAサイクル(改善努力)



教育成果の測定を媒介として、改善努力の検証に質を還元する
(羽田, 2007)を筆者がイメージ化

(付録B)

16

参考文献

- CHEA (2003). *Statement of Mutual Responsibilities for Student Learning Outcomes: Accreditation, Institutions, and Programs*. Council for Higher Education Accreditation, Washington DC.
- O'Brien, Patricia M. (2011). *Accreditation Visits: Assuring and Improving Quality through Peer Review*. 大学基準協会主催「新大学評価システムシンポジウム」: 新たな大学評価の理念 — 内部質保証システムをいかに評価するか — 基調講演2資料、2011年(1月12日)
- Terenzini, P. T. (1989). *Assessment with open eyes: Pitfalls in studying student outcomes*. *Journal of Higher Education*, 60, 644-664
- 大場洋 (2009) 「第7章 フランスにおける高等教育の質保証」 羽田貴史・米澤彰純・杉本和弘編著『高等教育質保証の国際比較』東信堂、177-195ページ。
- 羽田貴史 (2007) 「質保証に関する状況と課題」 広島大学高等教育研究開発センター『21世紀型高等教育システム構築と質的保証 - COE 最終報告書 - 第1部 (下)』広島大学、177 - 185ページ
- 宮浦崇・山田勉・鳥居朋子・青山佳世 (2011) 「大学における内部質保証の実現に向けた取り組み - 自己点検・評価活動および教学改善活動の現状と課題 -」 『立命館高等教育研究』第11号、151-166ページ

ご清聴ありがとうございました！